

懇談会開催日：令和6年6月5日(水)

地区：神社

要望・意見内容	市長回答
農業法人をやっており、生産者の高齢化で依頼は増えているが、人手不足なうえ、米が安価なため困っている。小麦への転用を検討したが、地質が小麦には向いておらず他の作物への転用も難しいため、農業振興策を考えて欲しい。 まち協、自治会も、高齢化、人不足で、若い人を取り込めないため、イベントができない。お木曳も同様である。	・色々なところが人手不足になっていることは認識をしている。 ・米価は大きな問題であると認識しており、農林水産省でも対策を検討しているが難しいという話を聞いている。市としても、できる限りのことはしていきたい。 ・鳥羽商船の生徒が、みかんの収穫時期をカメラで判断する仕組みを研究するなど、若い力を感じている。また、福祉事業所が障がい者を雇用し、ワインづくりを行っている例もある。補助や支援については、柔軟に対応していきたい。
人口が少なくなると、サービスを提供し続けることが難しくなると思う。今後、支所、学校統合はどうなっていくのか。	・支所の業務について、他市町では、郵便局に委託している例も多いことから、これらも参考にしながら、支所の在り方を考えていきたい。 ・学校の統合については、児童生徒数の増減が当初の想定と異なっていたり、複式学級が他校とオンライン合同授業等もしやすくなったこともあり、今後の統合の計画については、もう少し様子を見たいと考えている。 ・5月に能登に行ってきた、公共施設、学校等、防災機能として活用できるものは残していく必要があるのではと感じた。コミュニティ拠点がなくなると、一度地域を離れた人が帰ってくることは難しいと思うので、そのような事も含めて議論していきたい。
旧神社小を企業が使うことになったと聞いた。避難所としての使用に支障が出ないようにしてもらいたい。	旧神社小を企業が使うことになっても、避難所や地域活動での使用については、協力してもらえるようになっている。
小木町は、小学生の8～9割が有緋小に通っているため、子供会もなくなって、自治会運営がしにくい。小、中学校が違えば大人になってからも地域の付き合いが薄くなるではと思う。同じ学校でというのが理想と思うので、何とかできないか。	他地区でも、一本化より自由化が進んでおり、同様の事象は多くなっているため、今後の参考にしたい。
竹ヶ鼻町は昔は、造船の町で人口も多かったが、人口減少で奉曳団の結成が難しくなっている。また、若い人が他市に多く転出していることもあり、高齢化と少子化が進み、空き家も多くなっている。	お木曳行事等については、企業に協力、応援してもらえないものかと思う。
奉曳団の結成が難しくなっている。参加者はある程度いるものの、役員のなり手がいない。他町との合併は難しく、他町へ参加等、5か町での協力も必要と思う。また、お木曳はできても、お白石持ちはできないということもあるので、考えていかないといけないと思う。	お木曳については、他地区でも連合体の動きはある。時代に合ったお木曳の在り方を考えていきたい。
宮川用水が傷んできており、農家の負担が増えている。また、使っていない畑でも負担金が必要なので、何か対策をしてほしい。	宮川用水の傷みについては、宮川用水土地改良区と情報共有したい。

要望・意見内容	市長回答
通学路になっているところもあるので、子どもが落ちないように対策してほしい。(蓋をすると、田んぼへ水を入れる弁を外せなくなるため、蓋は現実的ではない。)	子どもの交通安全については、ポールを立てる、白線を引くということは可能なものもあるため、町で意見をまとめて要望してもらいたい。
少子化、人口流出対策として、勤め先を確保するための企業誘致や対策をしてほしい。	企業誘致の土地は、ほとんどなくなってきたため、既存企業の事業拡大の支援や、宿泊施設を誘致することで、正規雇用の拡大を目指している。
奉曳団の結成にあたって、当初参加意向があったものが、負担金を伝えたところ減少したため、結成を見送る方向になった。補助金を出してもらうことはできないか。また、お木曳に参加したい子どもは多くいるので、特別神領民用の奉曳車を合同で曳かせてもらえないか。	お木曳については、今日の話をお遷宮委員会事務局に伝え、市としてもできることを考えたい。